

細胞機能異常と腫瘍

(Pathology of functional abnormalities and tumors)

【責任者/担当者】

〔病理学 病理診断部門〕 大江 知里 主任教授

【担当者】

〔病理学 病理診断部門〕 松田 育雄 准教授、山田 直子 講師、山根木 康嗣 講師、
杉原 綾子 非常勤講師

【目的】

- ・細胞障害・変性と細胞死:細胞障害・変性および細胞死の原因・病態と細胞・組織の形態的変化を理解する。
- ・代謝障害:糖質、タンパク質、脂質などの代謝異常によって生じる多様な疾患について理解する。
- ・腫瘍:細胞の増殖・分化の機構とそれらの異常を学び、腫瘍の定義、発生機構と病態を理解する。また、いくつかの腫瘍については、個別の病態・疫学・病理像・診断法・治療法についての概要を理解する。

【科目キーワード】

「変性(Degeneration)」 「代謝障害(Metabolic disorder)」 「腫瘍(Neoplasm)」

【到達目標(アウトカム)】

- ☐ 細胞障害・変性と細胞死の多様性、原因、形態的変化、その意義を説明できる。
- ☐ 糖質・タンパク質／アミノ酸・脂質・核酸／ヌクレオチド・無機質の代謝異常の病態を説明できる。
- ☐ 組織の再生と修復や肥大、増生、化生、異形成と退形成を説明できる。
- ☐ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違い、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いを説明できる。
- ☐ 腫瘍発生に関わる遺伝的要因と外的因子、癌遺伝子と癌抑制遺伝子を概説できる。
- ☐ 主な腫瘍の疫学・病態・組織像・細胞像などについての概要を説明できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・検査や基本的手技を知っている。
- ・人体構造・機能を理解している。
- ・疾患につながる病態生理の基本を理解している。
- ・治療につながる病態生理の基本を理解している。

【概要ならびに履修方法】

細胞障害・変性と細胞死・ネクローシス・アポトーシス・糖質代謝異常・タンパク質/アミノ酸代謝異常・脂質代謝異常・核酸/ヌクレオチド代謝異常・無機質代謝異常・組織の再生/修復・肥大と増生の違い・化生・異形成・退形成・良性腫瘍と悪性腫瘍の違い・上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違い・腫瘍細胞の異型性と多型性・腫瘍の増殖/局所浸潤と転移・腫瘍発生に関わる遺伝的要因と外的因子・癌遺伝子と癌抑制遺伝子・代表的な臓器の腫瘍の病態等に関して講義を行い、重要な病態や病変については実習を行って理解を深める。

【準備学修ならびに事後学修に要する時間】

前日までに該当する部分の講義内容に 1 時間程度目を通すこと。

【成績の評価方法・基準】

・定期試験(筆記試験を含む)80%、実習評価 20%

(兵庫医科大学学則、教務に関する規程の通り、出席が授業実施時間数の 2/3 に満たない場合は定期試験・再試験の受験資格を失う)。

・実習は皆勤が条件

【学生への助言】

病変の認識は正常組織の理解の上に成り立つものであり、組織学の知識が重要であることを承知し、あらかじめ正常組織についての理解を深めておくこと。その上で、各病変の特徴の要点を把握すること。

【フィードバック方針】

試験についての解説講義を行う(低正答率問題を中心)

【オフィスアワー】

特になし

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

「ロビンス基礎病理学(原書 10 版)」豊國伸哉、高橋雅英 監訳(丸善出版)2018 年

「組織病理アトラス(第6版)」深山正久、他 編(文光堂)2015 年

【連絡先】

教育研究棟 9 階 病理学 病理診断部門 セミナー室